

令和7年 第1回

さっぽろ建設産業活性化推進協議会

議 事 録

日 時:2025年6月12日(木)午前9時30分開会

場 所:ホテルモントレーデルホフ札幌 12階 ルセルナホール

1. 開会挨拶(小泉建設局長)

おはようございます。建設局長の小泉でございます。今年の4月に着任をいたしました。皆様、どうぞよろしくお願いいたします。

本日は、ご多忙のところ、この会議にご出席をいただきまして、誠にありがとうございます。

また、日頃より、私どもの建設行政やまちづくりにご尽力いただいていますことに重ねて感謝を申し上げたいと思います。ありがとうございます。

さて、皆様十分ご承知だと思いますけれども、建設業における人材不足というのは本当に喫緊かつ重要な課題になってきております。先日のニュースでは、2024年に生まれたお子さんが70万人を切って68万6,000人ということで、統計がある1899年以降最低ということでございます。団塊ジュニア世代と言われている世代は50代前半ですけれども、その方々の生まれた年の最高が209万人なので、大体3分の1まで少なくなっているということです。

今年は2025年ですけれども、2025年問題という話もありまして、団塊の世代の皆さんは75歳以上の後期高齢者になるということで、労働市場からどんどん引退されますので、ますます厳しい状況になってきているということです。

人口減少はこれからますます進んでいきまして、様々な業界で人手不足が起こりますので、我々建設業界としましても、担い手の確保の取組を強化していく必要がございます。

さらには、今回のアンケート結果を見ますと、やはり3Kのイメージがまだ残っているという結果もありますので、効果的な広報も重要かと思っています。

本日は、今年3月に皆様のご協力の下に完成しました「さっぽろ建設産業活性化プラン2025」が策定された後の第1回目の会議でございまして、第2期目のスタートでもございます。

前回のプランから継続の取組もありますけれども、より力点を置く施策として、今年度は三つの重点施策を設定しています。

次第の4番で意見交換がございまして、そのときに重点施策に関連した市の取組予定を説明させていただきますとともに、皆様からも特徴的な取組をお話ししていただければと思います。

最後になりますが、今回のプランの策定がゴールではなくて、プランで位置づけた各取組について関係の皆様と課題や情報を共有しながら、より実効性を高めていくことが重要だと思います。今後も様々な場面でご意見をいただきながら、皆様と一体となって取組を推進していきたいと思いますので、皆様、どうぞよろしくお願いいたします。

2. 開会挨拶(北海道大学 高野教授)

本日は、ただいま小泉さんから話がありましたように、「さっぽろ建設産業活性化プラン2025」策定後の今後の進め方等についてご議論をいただくということでございます。

昨今、米不足によって、5キロで5,000円近くになってしまったということも聞きます。北海道はほかと比べると状況はいいようですが、お弁当屋の倒産がかなり増えているという話を

聞きました。これは、お米の値段が高くなって、すぐさま倒産というわけではないのでしょうけれども、今まで500円、600円で売っていたお弁当を800円、900円にしなければいけない、これではとても弁当屋としてやっていけないということで、そもそも商売を辞めてしまう方が多いという話を聞いております。

建設業も似たようなところがあると思いますが、建設にかかるコストが非常に高くなっておりまして、民間の方々は、今は建設コストが高いし、計画をしてから工事するまでに時間がかかるとなると、ますます高くなってくるので、今はもう無理だよねということで需要控えがあると思います。住宅、マンションを考えても、35年ローンでは抱え切れなくなって、50年ローンというものが今は出ているようで、30代で借りて80代まで返し続ける、そうしないとマンションを買えないという時代になってきました。

そういう中で、供給サイドとしては給料が上がるのは非常に結構なわけですが、お客サイドから考えますと、公共事業を含めてコストが上がってしまうため、お弁当屋の廃業ではないですけども、建設業の需要が減ってしまうために買い手が離れていくということが起こるわけです。それは避けなくてはいけないので、我々は供給サイドの議論はするのですが、どうやって公共を含めてお客様目線で買いやすいものにしてくかということも考えて、少し時間にずれがあるかもしれませんが、買い手離れが起こらないようにしなければいけないと感じております。あちらを立てればこちらが立たずということで、生業の問題はいろいろと難しい面が多いと思います。

今日も、さっぽろ建設産業活性化プラン2025の進め方とともに、いろいろと情報交換をしていきたいと思っております。どんなことでも結構ですので、どうぞご忌憚のないご意見を頂戴できればと思います。どうぞよろしくお願いいたします。

3. さっぽろ建設産業活性化プラン2025策定後の今後の進め方について

○北海道大学)高野教授

それでは、早速でございますが、さっぽろ建設産業活性化プラン2025策定後の今後の進め方について、資料の説明をお願いいたします。

以下の資料について、事務局から説明

・資料3:さっぽろ建設産業活性化プラン2025策定後の今後の進め方について

4. 意見交換(進行:北海道大学 高野教授)

○北海道大学)高野教授

今度は議題1「令和7年度の取組予定について」ということで、市の取組状況、業界の取組状況について説明を頂戴したいと思います。お願いします。

【議題1】令和7年度の取組予定について

以下の資料について、事務局から説明

・資料4：市の取組予定(札幌市)

・資料5-1：各団体の取組予定 ※市から今年度新たに照会した項目や各項目の概要を説明

○北海道大学)高野教授

各団体の取組予定ということで、いろいろな各団体に照会をお願いしたところ、大変たくさんの回答を寄せていただきまして、誠にありがとうございました。それぞれの団体で今後どういう取組をなされるかということや、充実しているなということがよく分かったところでございます。

それでは、各団体からこれをというお話があらうかと思しますので、ご説明をいただける方についてはお願いしたいと思います。

○北海道舗装事業協会

資料5-2にチラシをつけていただいているので、その説明をしたいと思います。このチラシは、「MICHI-FAN GUIDE」というウェブサイトの紹介チラシでして、もし時間がありましたら、QRコードが出ていますので、スマホ等で見ていただきたいと思います。

この取組は、情報発信ということと、今の取組の分類でいくと、報告3「多様な人材への取組」ということで始めたものでございます。

オウンドメディアというのは自社メディアなのですが、私どもの協会も協会のウェブサイトはあるのですが、「舗装」というワードで検索して見てくれる人はほとんどいなくて、一般の人にアプローチしようということになると、また別の取組が要ということで、「MICHI-FAN GUIDE」を立ち上げたところです。

これを立ち上げたのは去年の10月からで、私どもの協会と北海道アスファルト合材協会、日本道路建設業協会北海道支部の3協会の協力です。

舗装の取組といいますか、舗装の業界を知ってもらいたいということなのですが、もっと広い人たちにアクセスしてもらいたいということで、舗装よりももう少し広げて道路や道路にまつわる色々な情報をここで発信することによって、色々なワードで検索がかかれば良いと考えて、様々な内容を入れております。

中身としては幾つかのコンテンツがあります。最新の情報ということで、知床峠が通れるようになったというような道路の開通情報や、未知なる道というところでは、長い直線道路の紹介や、秘境の道など、ちょっと変わった道のコンテンツを入れてあります。それから、「極め！〇〇道」ということで、舗装の職人的な技術について紹介し、道を広く捉えてもらいたいということでつくっているものです。

今、週に1回ぐらいのペースで更新することを目標に、まだ初めなので外注で手伝ってもらっているのですが、行く行くは私ども協会や協会の会員で中身をアップデートしていきたいと思っております。

今日、紹介するためにアクセス状況を調べてきたのですが、去年の10月から4月までの状況で、今、表示されているページビューが1万3,000回ぐらいですから、まだそんなに多くはないです。特に、最初の頃や、12月ぐらいに写真コンテストの表彰作品を載せるなどした頃は結構多かったのですが、その後は少し低迷しておりまして、またいろいろな情報を入れていかなければいけないと考えているところです。

アクセス元のデータがある程度解析できていて、多くは札幌市からのアクセス、旭川や本州からも若干のアクセスがあります。それから、男女で見ると、男性が4分の3ぐらいで女性からのアクセスは少ないです。それから、年齢別で見ると、20代、30代という本当に狙っていたところの年齢層の人に見ていただいているということです。

このページに来ていただいているのは、8割方は検索で引っかかって見られているということで、どういうワードで検索してくれているのかというところを見ると、結構多いのは開通情報でありまして、昨年ですと、余市－仁木間の高規格道が開通しましたので、そういう情報を載せると結構見てくれています。

そのほか、「HibiMiru(ひびみる)」という室蘭工業大学で開発している舗装の点検システムがあるのですが、それを載せると「HibiMiru」で結構検索されて見られています。

それから、このページの中で職人のこだわりみたいなものを紹介したくて「ASPHALTONS(アスファルトンズ)」というアメコミ風のヒーローみたいなキャラクターをつくって、例えば、レーキマンであればレーカーということで、自分の仕事のこだわりなどを紹介するページがあるのですが、これも「ASPHALTONS」で検索されて見られているという状況です。

これがすぐに担い手の確保につながるということはないかもしれませんが、とにかく我々の業界の認知度を高めてイメージを向上させたいということで始めておりますので、幅広い方に、建設以外に興味を持っている方にも見ていただいて、今後、いろいろと展開をしていきたいと思っております。

実は、ウェブサイトの下の方にもあるのですが、インスタも静かにやっております。インスタの認知度も上げようということで、インスタを利用した写真コンテストのようなキャンペーンを今年やろうと考えております。今後、いろいろな活用をしていきたいと思っておりますので、お知恵がありましたらまた教えていただきたいと思います。よろしくお願いいたします。

○北海道大学)高野教授

ありがとうございました。今ご説明いただきましたが、アニメのヒーローといいますか、レーキを持っている人などがいますが、そういうところでも惹かれる部分があると思います。

コンストラクション甲子園というものをずっとやっていますけれども、その問題にこのヒーローの名前を出そうと思っていたところです。

「MICHI－FAN GUIDE」というホームページで、アニメのヒーローもつくっていただいて、非常に力を込めた取組でありました。この話を皆様に広めていただいて、より多くのアクセスをと思います。

続いて、先ほどの資料の報告1から7の中で、大変丁寧に盛りだくさんで書いていただきました電設業協会にお話を頂戴できればと思います。

○電設業協会

これは、我々の団体各社にアンケートを取って載せたので、多種多様といいますか、いろいろあると思います。特にその中で、報告5に分業体制の話をいろいろ書いてあるので、業界全体でどんな雰囲気なのか、私なりに今回のアンケートで感じたところを少しお話ししたいと思います。

一つは、分業体制を進めないで技術者の不足は賄えないというのは業界全体で共通の認識になりつつあるのではないかという気はします。したがって、大手はそれぞれ専門部門とか、一番分かりやすい例で言うと、BIMなんかの専門部門を持っているとか、そういう形で分業体制をやっています。

逆に、今回のアンケートを見て思ったのは、書類作成の分業から始まって、そこに自社の事務職の方だったり、あるいは募集をした、割と女性の方が多いみたいですけれども、二、三名で建設ディレクターという形でやり出しているということが若い会社では出ているという感じで見えています。

ただ、ここからは個人の意見ですけれども、書類の作成だけを分業化するのではなくて、もう少し突っ込んで分業化をやっていかなければいけないと思ったときに、うちの会社では、1級の施工管理技術者の資格を持っているけれども体調を崩して現場に行きづらいという人をチームリーダーにして、4名ぐらいの体制でチームをつくっていきまして、現場を経験した技術者が頭に最低1人いる、というのが一つの理想形かと思っています。一方で、1級の施工管理技術者は一人でも現場に行かせたいというジレンマに私どもも悩んでいますけれども、そこら辺が進むかどうか分業体制の一つのキーワードなのではないかと私自身は思っております。

少しずつですけれども、試行錯誤をしながら各社で分業化は進めざるを得ないので、各設備だったり、建築の方々にご理解いただきながらやっていくしかないと思っています。

それから、書類の作成についてもう一つ突っ込むと、AIをどこまで使っているのかというのは発注者の意向もあるのだろうと思いますけれども、AIなどを使った分業制も考えていきたいと思っていますので、また意見交換をさせていただければ幸いです。

○北海道大学)高野教授

ありがとうございました。書類の作成、BIM／CIMの導入等々に建設ディレクターという職能をつくって進めていこうという話が全国的にも広がっていますけれども、聞くところによると、建設ディレクター協会の講習を受けて建設ディレクターという称号を持っている方は全国で北海道が一番多いということです。ですから、京都から始まったものですが、意外にも北海道ではほかの都府県よりも多くやられているということで、こういうものをきっかけにし

て、今までとは違った分業体制といいますか、職能の在り方ということで、特に女性の方も参入しやすいというところもあるようですが、その辺は今後の非常に大きな核になるのではないかと感じております。

ということで、分業体制の話も出ましたし、最初のところで市の取組というところが出ておりまして、2ページの下のところ助成金制度の話もございましたし、週休2日の工事、施工の平準化、あるいはICT活用工事の話も含めてご説明があったところです。市の関係の方々がおそろいでございますので、市の発注者としての進め方についてのご質問やご意見でも結構でございますが、今ご説明があったところについて、あるいは、各団体様から皆さんに知っていただけてもらいたいということでも結構でございます。もし何かありましたらここでご披露いただければと思います。

インターンシップの進め方とか、皆さんはいろいろお悩みのところだと思いますけれども、いかがでしょうか。

○建設局土木部長

市の取組ということで何点か紹介をさせていただいた中で、高野先生からも今ございましたけれども、助成金の関係についてお話をさせていただきたいと思います。

これまでも、いろいろな助成金という形で取組をさせていただきましたが、今年から新規に導入したものもございます。資料4の2ページですが、免許資格取得に関わる助成や建設DXに関わる助成ということで新たに開始させていただきました。その他の助成についてもこれまでいろいろと行っているところがございますけれども、ぜひ業界の皆様方にもご周知いただき、ご不明点があれば札幌市へお問合せをいただいて、ぜひご活用いただければということで、PRをさせていただきます。

それから、先ほど、北海道舗装事業協会様と電設業協会様からお話をいただきまして、ありがとうございました。

「MICHI-FAN GUIDE」につきましては、スマホでも見られるものですから、私も拝見させていただいた中で、ちょっと偉そうな言い方になりますが、いろいろと工夫をされていると思っております。こういったホームページを活用した情報発信や、これまで建設業にあまり興味のない人材、一般へのアプローチというお話もございましたけれども、そういうところに舗装工事も含めていろいろなPRをしていただいていると思っております。また、更新頻度につきましても週1回程度を目指しているということで、大変なご尽力をされていると感じました。ぜひ引き続き取組を続けていただければと思っておりますので、よろしくお願いします。

また、分業体制の構築という報告をさせていただいた中で、電設業協会様からご発言いただきまして、ありがとうございます。協会の皆様方も、分業化というところにはいろいろなお悩みを持たれているのかなと感じております。そういったところにつきましても我々のほうにもご意見等をいただきながら、引き続き考えていきたいと思ひますし、各業界の皆様方におかれましても、ぜひこういった取組を進めていただければと思ひますので、引き続きよろしくお

願いいたします。

○北海道大学)高野教授

ありがとうございました。ほかにいかがでしょうか。

○札幌測友会

札幌市の取組の中で、先ほど、インターンシップの促進というところで、今、1校の学校と具体的な日程調整をされているということでした。数的に1校というのは少ないかなという気がするのですが、具体的なところでなくても、今、実際にそういうお話が進められているような件数といえますか、学校の数はお分かりになるのでしょうか。

○事務局

北海道の教育長とお話をまずさせていただいて、いろいろな学校にアプローチをしました。その中で、学校のカリキュラムにはまるはまらないみたいな話や、ご要望に合う合わないみたいなところがあって、今、実際に動き出しているのが厚別高校の1校となっております。その他の学校につきましても、興味を持っていただいている学校もありますので、今後も調整をして、一校でも多くやっていきたいと考えてございます。

○北海道大学)高野教授

ほかに何かございますか。

(「なし」と発言する者あり)

○北海道大学)高野教授

それでは、議題2の市からの情報提供でございます。資料6についてご説明をお願いします。

【議題2】市からの情報提供について

以下の資料について、事務局から説明

- ・資料6-1:LINEアンケート結果
- ・資料6-2:企業アンケート結果、就業者アンケート結果
- ・資料6-3:より効果的なPR広報について

○北海道大学)高野教授

ありがとうございました。最後のPRについては、基本は市のほうで動画を作成するに当たり、皆様のご協力を頂戴したいということなのですね。

○事務局

現在のさっぽろけんせつガイドに載せている動画もあるのですが、その内容の見直し、あるいは追加を事務局として考えていきたいということと、業界の皆様がつくっている動画とのすみ分けをしていくとか、リンクを貼り直すということを含めて考えていきたいと思っています。

○北海道大学)高野教授

わかりました。市からの情報提供ということで、一般の方、就業者の方のアンケート等についてのご説明を頂戴しましたが、いかがでしょうか。

○札幌中小建設業協会

資料6-3について、基本コンセプトに関連して発言させていただきたいと思います。

先ほどのLINEアンケートにもありましたが、建設の仕事の重要性はある程度広まっていると思いますけれども、北海道胆振東部地震後の復旧に関連して、実例を出して建設業の役割に対するイメージアップと、そして、何もなかったものが新たに出来上がるという仕事の楽しさといった点も、実例の写真等をつけて今後は広報していくとよいと思います。

また、労働環境は以前に比べてかなり変わり、改善してきているという点について、週休2日に関しては先日の建設新聞に掲載されておりましたが、札幌市の昨年の発注工事における週休2日の達成率は、土木工事が100%で、建築工事は98%と出ておりました。今後の課題は、民間工事において週休2日をいかに達成するかだと思います。

そして、我々の建設業は危険な仕事と思われるなど、まだまだ周知が足りないところがあるため、アニメ動画などを使って明るく表現していくのがいいのではないかと考えております。

昨年から今年の3月にかけて、私の会社にインターンシップに来て、面接に来た新卒者の学生が10名いました。当初の内定者は男子学生2名と女子学生1名とっておりましたが、男子学生よりも女子学生の方がしっかりした受け答えをしていて、工事現場におけるイメージもしっかりと持っているため、当初の採用予定と変わり、女子学生3名と男子学生3名の6名を来年度採用に内定しました。今年も新卒の女子学生を採用しておりますが、工事現場における産休や育児休暇に対して、工事現場において交代要員を配置できるように体制づくりをしていかなければならないと思います。

より効果的な取組を進めてもらいたいと思うので、現場等への協力依頼があれば協力していきたいと考えております。

○北海道大学)高野教授

ありがとうございます。事務局から何かございますか。

○建設局土木部長

ご発言をいただきまして、ありがとうございます。

今までは、就職先として、どうしても危険なイメージとか、アンケートにもあったような理由が

あったと思いますので、当然、我々としてもそこは改善していかなければならないと思っておりますし、皆様方にもいろいろとご協力などをいただきながら、場合によっては動画なりを作成するときに皆様の現場にお邪魔をさせていただくこともあろうかと思っておりますので、ご協力をいただければと思います。よろしくお願いいたします。

○北海道大学)高野教授

ありがとうございます。ほかにいかがでしょうか。

○札幌建設業協会札幌部会

私からは、資料6-3のより効果的なPR広報についてのアプローチ手法について発言させていただきたいと思います。

今、事務局の方から説明がございましたように、入り口は広く、だんだんと深く狭くというアプローチについては、確かにそのような形で進められていくという作り方が良いとは思いますが、一度にいろいろなことをたくさんと伝えようとすると、どうしても動画が長くなってしまって、先ほどのLINEのアンケートの一般の方のご意見のように、特段関心のない人にはそこをフックに見てもらえることがあまりないと思いますので、お話にありましたように、おっと思っただけのようなショート動画でまずは関心、注意を引くということは非常に有効でないかと思えます。

私には中学と小学校の息子がいるのですが、ユーチューブも今は本当に増えてきているショート動画であったり、Instagramのストーリーであったり、TikTokであったり、それらでザッピングするような感じでいろいろな情報を見えています。我々の幼少期とは情報の取り方が全く変わってきていますので、ぜひ、短い動画からインパクトがあるものを見ていただいて、そこから深いところに関心をつなげていくという手法がいいのではないかと思います。

また、建設業という大枠の分野としての取り上げ方も大事だとは思いますが、先ほどの北海道舗装事業協会のサイトのお話にもありましたように、建設業にもいろいろな業種があるということはやはり皆様に知っていただかなければならないと思いますので、様々な工種が関係してくることが多いことから、全体像に触れる動画も必要ですし、各業種または工種に触れていただくような動画といった役割分担があっても面白いのではないかと思います。

また、作り手が我々建設業界の目線であると、先ほどのLINEの一般のアンケートの方のように、専門性の高い仕事だからということでそもそも関心がないということがあります。そこで、一例ですが、ある一定のフォロワー数を持っているインスタグラマーという方がいらっしゃるのですが、若干費用がかかると思うのですが、そういった方が建設業や各種建設諸団体の活動を、プロの目線といいますか、第三者的な目線で見ていただくと。

動画を切り取ったり編集をするような仕事を生業としているインスタグラマーも複数いますので、そういった方々にアドバイスなどをいただきながら取り組んでいくと、我々の目線とはまた違った、ちょっと雑駁な言い方ですが、建設版のバズるショート動画ができるのではない

いかと思いますので、そちらもぜひご検討をしていただければと思います。

最後に、1点だけ質問です。

資料6-1の冒頭で、今回のサンプル数は530名で、属性が10代から50代、性別が不問となっているのですが、隣の性年代のグラフとリンクしているのでしょうか。これはどういふふうに見たらいいのでしょうか。

○事務局

性別不問というのは、男性に特化したアンケートもできるよということだと思うのですが、男女両方に聞きましたという意味だと思います。

実際に聞きましたら、右側のグラフのとおり、10代の男性53名、女性53名というように53名掛ける10個のブロックがあると思うのですが、各ブロック満遍なく全員に聞いていますということですか。

○札幌建設業協会札幌部会

本当にこれぐらい均等な男女の割合であったり、世代もほぼ同じぐらいの人数で満遍なくという、この数字が本当なのですね。

○事務局

LINEのほうでアンケートに協力してもらえ人を登録させているようで、そこの方に投げると回答が返ってくるという仕組みになっています。

○札幌建設業協会札幌部会

すごくきれいなグラフなので、どうなのかと思っていました。

それにしても、仕事内容が専門的な職業が断トツに高く、憧れる職業や働いてみたい職業が非常に低いというのが実態なのではないかと、より効率的なPR手法を我々も一緒に知恵を絞って考えていきたいと思いますし、今のお話にありましたように効果的な取組を進めていきたいと思います。我々の現場側でも協力できることがあれば精いっぱい協力をしてまいりたいと思いますので、ぜひよろしくお願いしたいと思います。

○北海道大学)高野教授

貴重なご意見をどうもありがとうございました。皆さん方から、ほかに何かお気づきの点ですとか、全体を通してでも結構でございますので、何かございますか。

市の方から何かございますか。

○建設局土木部長

皆様方から貴重な意見をいただきまして、ありがとうございます。

我々の取組の参考にさせていただきながら、最後にお話をいただきまして、繰り返しになりますけれども、現場にお邪魔したいというお願いをさせていただくこともあろうかと思しますので、その際にはぜひよろしくお願いします。

また、今日お話しいただけなかった皆様につきましても、こういうことはどうなのだろうというようなことがもしあれば、事務局にご連絡いただいて、我々もできる限りの取組をしてまいりたいと思いますので、皆様方にも引き続きのご協力をよろしくお願いいたします。

○北海道大学)高野教授

ありがとうございました。それら動画については、市のほうでおつくりなったものを自由に皆さん方に、例えばインターンシップのときに見てもらうとか、そういう使い方になるのですね。料金を取るということだったら大変だと思いますけれども、自由に使えるそうですので、ぜひやっていただければと思います。全体を通して何かございますか。

(「なし」と発言する者あり)

○北海道大学)高野教授

それでは、事務局に進行をお返ししたいと思います。

以 上